認知文法からフロイト派の分析技法を理解する試み

Ella Freeman Sharpe による解釈例をめぐって

○松本由起子

(北海道医療大学心理科学部)

キーワード: 認知文法、レトリック、精神分析

To understand the techniques of Freudian interpretation through the cognitive grammar

Yukiko MATSUMOTO

(Health Sciences University of Hokkaido, School of Psychological Science)

Key Words: Cognitive grammar, rhetoric, psychoanalysis

目 的

Ella Freeman Sharpe(1875-1947)は英国のフロイト派分析家である。1937 年刊行の名著 *Dream Analysis: A Practical Handbook for Psycho-Analysts* (以下 *Dream Analysis* と表記する)は、訓練生対象の講義を元にしたテキストで、フロイトの夢理論を解釈技法のレベルで明快に示し、夢分析の教科書としてはフロイトの『夢判断』に次ぐとされるが、その一方で、後年ラカンが大幅に引用し、「夢の作業」とメタファー、メトニミーなどの修辞法を重ねあわせて、精神分析における言語学的視点の確立への道を開くことにもなったことでも知られる。シャープは、革新的な技法をもつて、古典的なフロイト派の解釈をおこなっていたのである。シャープのその二面性は、精神分析における解釈の時代性や恣意性と、精神分析の技法としての有効性や生産性との双方を示し、その基盤と相互の関係を明らかにする手がかりになるのではないか。本研究は、ジェスチャー研究、子どもの言語獲得、認知文法の知見に照らして、シャープの解釈技法の認知的基盤を検討することを目的とする。

Dream Analysis および *Collected Papers*(Sharpe 1951)における解釈例を検討すると、シャープは解釈技法の基盤として、心理言語学、認知言語学における以下のような観点と近似した理解を持っていたことがわかった。

【概念メタファー】 言語は、言語獲得以前の身体的な表現に代わるものであり、言語以前の表現と連続的かつ交換可能である。(分析セッション中の会話例)

【二次的活性化】 ある音が成長過程で最初に持った意味は強く、大人になっても第1の意味は(それが一時的な誤解であっても)非明示的に参照されやすい。(‘I haven’t read the paper.’ という発言の read が red を暗示する例。‘widow’ を子どもの頃 ‘window’ のことだと思っていた人の例)

【潜在的スクリプト】 ある事件が(とくに乳幼児期に)情動的に強い印象を残した場合、そこで際立っていた物や人が事件全体を示しうる。

【からだ的思考・分析的思考のインターフェイス】 身体感覚(ことに乳幼児期のもの)をドラマ化して外界に投影する夢は多い(「排尿」の感覚を投影した「走る」夢)。

【ステージ理論】 分析における転移 transference は、子どもの遊戯 play に相当し、過去を再演する劇 play である。分析室内外における転移の発動・展開と、転移劇中への分析家

の参与により解釈水準は遊動性を持つ。

【主体化】 無意識的・無主體的な生の身体感覚を、ドラマ化を通じて時空間的に位置づけ、一般的な主体を立ちあげ、否定や過程も扱いうる思考とすりあわせて、「概念化者による理解のモード」(ラネカー 2011)を内包するオフステージから語る主体として、夢を語る「わたし」を設定する。(火事の夢の3つのパターン)

考 察

シャープは自他ともに認めるフロイト派で、実際、幼児性欲やエディプスといったフロイト派に典型的な解釈をすることが多い。それにもかかわらず、夢や発言の「文字通り」の理解から、精神分析的な解釈へと進む過程を、認知言語学や心理言語学のようなテクニカルな視点で捉え、それを解釈の技法とみなした点で、シャープは際立っている。シャープの著作は明快でわかりやすいと言われるが、そこではテクニカルな現代性と古典的解釈が同居しており、全体像としてはむしろわかりにくい。それが無名に留まっている理由でもあろうが、精神分析的な解釈に疑問を抱くとき、解釈への過程を「技法」として呈示するシャープのアプローチは、検討する価値があると思われる。

引用文献

- Sharpe, Ella Freeman (1937) *Dream Analysis: A Practical Handbook for Psycho-Analysts*.
 Sharpe, Ella Freeman (1978(1950)) *Collected papers on psycho-analysis*, Bruner/Meisel.
 ジョージ・レイコフ, マーク・ジョンソン (1986) レトリックと人生, 大修館書店
 デイビッド・マクニール (1972) ことばの獲得 発達心理言語学入門, 大修館書店
 デイビッド・マクニール (1990) 心理言語学「ことばと心」への新しいアプローチ, サイエンス社
 レイモンド・W. ギブズ Jr. (Raymond W. Gibbs, Jr.) (2008) 比喩と認知: 心とことばの認知科学, 研究社
 ロナルド・W・ラネカー (2011) 認知文法論序説, 研究社,
 喜多壮太郎 (2002) ジェスチャー 考えるからだ, 金子書房
 山梨正明 (2000) 認知言語学原理, くろしお出版
 岩田純一 (1988) 「比喩ル」の心 比喩の発達の観点から, 比喩と理解, 東京大学出版会, 161-187.